

【おいらせ町教育委員会】

校務DX計画

校務DX化（デジタルトランスフォーメーション）は、教師の負担軽減と教育の質の向上を目的としている。業務のデジタル化により、授業準備や成績処理、連絡業務の効率化、教師が生徒と向き合う時間を確保できる。また、働き方改革を推進し、過重労働の解消と教育現場の魅力向上にも取り組むことができる。これにより、子どもたちに最適な教育環境を提供できると考えている。

校務DX化を進めることで、出欠管理や学校間の情報共有が迅速化し、管理職や事務職員の負担も軽減され、学校運営全体の効率化も実現できる。また、緊急時の迅速な対応が可能となり、安全・安心な学校づくりが進められる。これらは地域社会とも連携し、保護者や地域住民との情報共有を強化することで、教育に対する信頼性を高めることができる。校務DX化は教育現場全体の挑戦を、教師、児童生徒、保護者すべてにとって有益な変革になると考えている。

校務DX化のおおよその推進過程は以下のとおりとする。

1 段階：基盤整備と改革意識

- 目標：校務DX化の基礎を構築し、関係者の意識を高める。
- 取り組み：
 - ◇ 現状の校務業務の課題を調査・分析。
 - ◇ ICT環境の整備（高速インターネット、デバイス搭載など）。
 - ◇ 教職員向けの研修を実施し、DXの意義や基本的な運用を理解させます。
 - ◇ DX推進チームを設置し、進捗管理や課題解決を決断します。

2 段階：業務部分のデジタル化

- 目標：校務の一部をデジタル化し、運用実績を得る。
- 取り組み：
 - ◇ 出管理や成績処理など、負担が大きい業務からデジタル化を開始。
 - ◇ デジタルツールや校務支援システムを導入。
 - ◇ 試行運用を行い、課題を抽出して改善策を実施。

3 段階：全校的なデジタル化の推進

- 目標：校務全体のデジタル化を推進し、運用充実を図る。
- 取り組み：
 - ◇ 校務支援システムを全校で本格運用。
 - ◇ 教職員間でのデータ共有や業務の効率化を推進。
 - ◇ 生徒と保護者との連絡手段のデジタル化（連絡帳や保護者会議など）。

4 段階：データ活用の高度化

- 目標：データを活用して教育の質を向上させる。
- 取り組み：
 - ◇ 生徒の学習データを分析し、最適化された指導法を開発。
 - ◇ 教育効果を測定し、データに基づく改善を実施。
 - ◇ 地域や他校との情報連携を進めます。

5 段階：DX 化の成熟と持続可能な仕組みの構築

- 目標：DX 化を完全に定着させ持続可能な運用体制を確立する。
- 取り組み：
 - ◇ 教育・校務運営の全プロセスを最適化。
 - ◇ DX 推進の成果を振り返り、課題を再評価。
 - ◇ 次期計画を策定し、進化する技術に対応する体制を整備する。

これに沿って、各段階で目標達成の進捗を評価しながら柔軟に調整していく。

校務 DX 化を推進する際には、スムーズな導入と効果的な活用が可能になるよう以下の点に配慮していく。

1. 教職員の意識とスキルの向上

- DX 化に対する不安や抵抗感を軽減するために、丁寧な説明と研修を実施する。
- 教職員の ICT スキルに個人差があることを考慮し、段階的かつ分かりやすいサポートを提供する。

2. 負担増加の回避

- 新システム導入が従来教職員の負担を増やさず、直感で直感的な操作性を確保する。
- すべての業務フローを見直し、不要な業務を削減することで実効性を高める。

3. 生徒や保護者への影響への配慮

- デジタルツールの活用が保護者や生徒に負担を与えることなく、わかりやすい説明やガイドを準備する。
- アナログ対応も一定期間併用し、新しい環境に移行するための時間を確保する。

4. プライバシーとセキュリティの確保

- 生徒や教職員の個人情報を管理し、情報漏洩を防ぐためのセキュリティ対策を強化する。
- データの保存や共有における法令遵守（個人情報保護法等）を徹底する。

5. システムの継続的な改善

- 導入後も現場からのフィードバックをし、システムを改善・最適化する。
- 技術の進化に応じたアップデートや新機能の導入を計画的に行う。

6. コミュニケーションの強化

- 教職員間、学校と保護者、地域との間で十分な情報共有と意見交換を行う。
- DX化が学校全体の方針や目標と一致していることを共有する。

7. コストと効果のバランス

- コストと期待される効果を明確にし、無駄を減らすよう改善する。
- 対費用効果を定期的に検証し、持続可能な運用計画を立てる。

8. 現場や地域の特性を尊重する

- 実際の現場での運用を想定したシステム構築を行う。
- 地域や学校ごとの IT リテラシーやニーズに配慮し、段階的にアプローチする。

以上を踏まえて計画を実行することで、校務 DX 化が現場に負担をかけず、効果的に推進され则认为る。